



# 萌木

## 10月



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和4年10月13日発行

～自尊・立志・感動～

## 振り返り実感し、さらに進む力

校長 山田 勝

2学期もすでに3分の1を過ぎ、中間考査も終わり合唱コンクール、期末考査の合間に3年の進路面談など学年ごとの行事もあり、生徒たちも自分の成長を実感する余裕もないままこの2学期を過ごしています。

その中でも、9月にはそれぞれが学年ごとに取り組んでいた校外での行事があり、最近の日常の中では社会の中での自分や自分たちを実感できた、自分の成長を感じることができた機会がありました。

はしうち教室は14日から16日まで木島平を移動教室で訪れました。自然や人との出会いに、改めて自分の大切さを感じる経験ができました。

1年生は調布しらべで27日の午後、班ごとに決めた市内の施設や名所旧跡を訪れ地域で実践されているSDGsの取り組みを調べてきました。

2年生は16日、互いに協力し公共のマナーを守ることで、企画立案力と社会性を身につけることとともに、「温故知新」昔と今と未来を学びSDGsについて考えを深めることを目標とした校外学習に取り組みました。時間面での課題等ありましたが、各自の成長を知るよい機会となりました。

3年生は24日から26日まで修学旅行で関西へ向かいました。前日来の台風の影響で新幹線が止まり、東京駅を出発できたのは予定の6時間以上後の午後3時でした。その間、東京駅の団体待合せ場所で待機をしていたのですが、3年生の姿勢はとても立派でした。緊急事態の時こそ、その集団の真価をうかがうことができます。不満や不安を抱えながらも指示を一生懸命聞き、互いに励ましあいながらリラックスもして仲間と過ごしている姿には、とても頼もしさを感じました。ともに事態に対処する仲間への信頼ときずなを実感させる振る舞いを自然にとっていました。その後の京都や宿舎での生活・行動ぶりからも成長を感じることができましたが、できれば遭遇したくはなかった1日目の緊急事態の中での3年生のあり様に、3年生の一番の成長を感じました。



普段の授業では、教科書等から知識を得、技能を獲得して考える力や表現する力を育む、そのような学びに向かう力の獲得を目指し、取り組んでいます。その授業等で学んだ各教科の力を確実に自分のものに定着させるためには、獲得した力の活用が重要になってきます。その獲得した力を活用する場面が校外学習や修学旅行などの取り組みには多くあり、自分の成長を実感できることにつながります。

修学旅行中、連立方程式が解けないとバスに乗れないなどということはありませんが、各教科の課題解決をする中で得た考え方や知識を実際の場面で活用することで定着させることができ、学びに向かう力をより強く持つことにつながります。

そういった自分の獲得した知識や考え方を活用し、また足りない部分を感じることができる校外でのこのような活動の意味を改めて感じました。確実に成長している今の立ち位置を確認し、さらなる成長へ次の一步をしっかりと踏み出すきっかけにしてほしいと思います。